

研究

「ポスト2015における開発戦略に関する実証研究」

①研究の背景と上位目標

- ・国連ミレニアム開発目標(MDGs)の達成期限である2015年が近づき、現行のMDGsの枠組みの評価やポスト2015に関する議論が活発化している。しかし、現行のMDGsの中で、実証的エビデンスに基づいた評価が進んでいるものは限られ、更には現行MDGsで取り上げられなかった開発課題の中にも、ポスト2015で取り組むべき重要なものも残されている。
- ・本研究では、現行MDGsの達成プロセスから取り残されている人々や課題を実証研究を通じて明らかにし、そこから得られたエビデンスをもって、ポスト2015に向けた開発戦略の方向性付けに資することを目標とする。

⑤上位目標達成へのシナリオ

- ・国内格差や貧困ダイナミクスの分析を通じて、開発から取り残された人々の特徴を確認し、対応策に必要な配慮、有効な援助・政策オプション、モニタリング指標等の提言を行う。
- ・紛争や災害といったリスク要因がどのように開発の進捗を阻害しているのかを明らかにすることで、レジリエンス強化に向けた政策含意を導く。

②研究の目的

- ・インクルーシブネスをテーマに、現行MDGs達成から残されている人々の特徴と彼らが直面する課題を明らかにする。
- ・レジリエンスをテーマに、現行MDGsに含まれていない開発課題、特に持続的な開発を阻害するリスク要因に焦点をあて、検証を行う。

④これまでの成果と課題

- ・準備研究段階において、マクロデータを用いたMDGs達成状況の把握と先行研究の包括的なサーベイを行った。
- ・レジリエンス分野では、所内の他の研究プロジェクトの進捗や研究成果を踏まえつつ、連携を図る。

③研究の方法

- ・「国内格差・貧困ダイナミクス」、「障害と開発」、「脆弱国・紛争」をテーマに、実証分析を行う。
- ・MDGs達成プロセスから疎外されている脆弱層の決定要因分析や、障害の有無によるパフォーマンスやピア効果分析、マクロレベルのMDGs関連データの国別・時系列分析などにより、検証を行う。